

《ここに来てよかったさ～》

～みんなでつなぐ想い～

社会福祉法人 千尋会
嬉の里 中尾 泰典

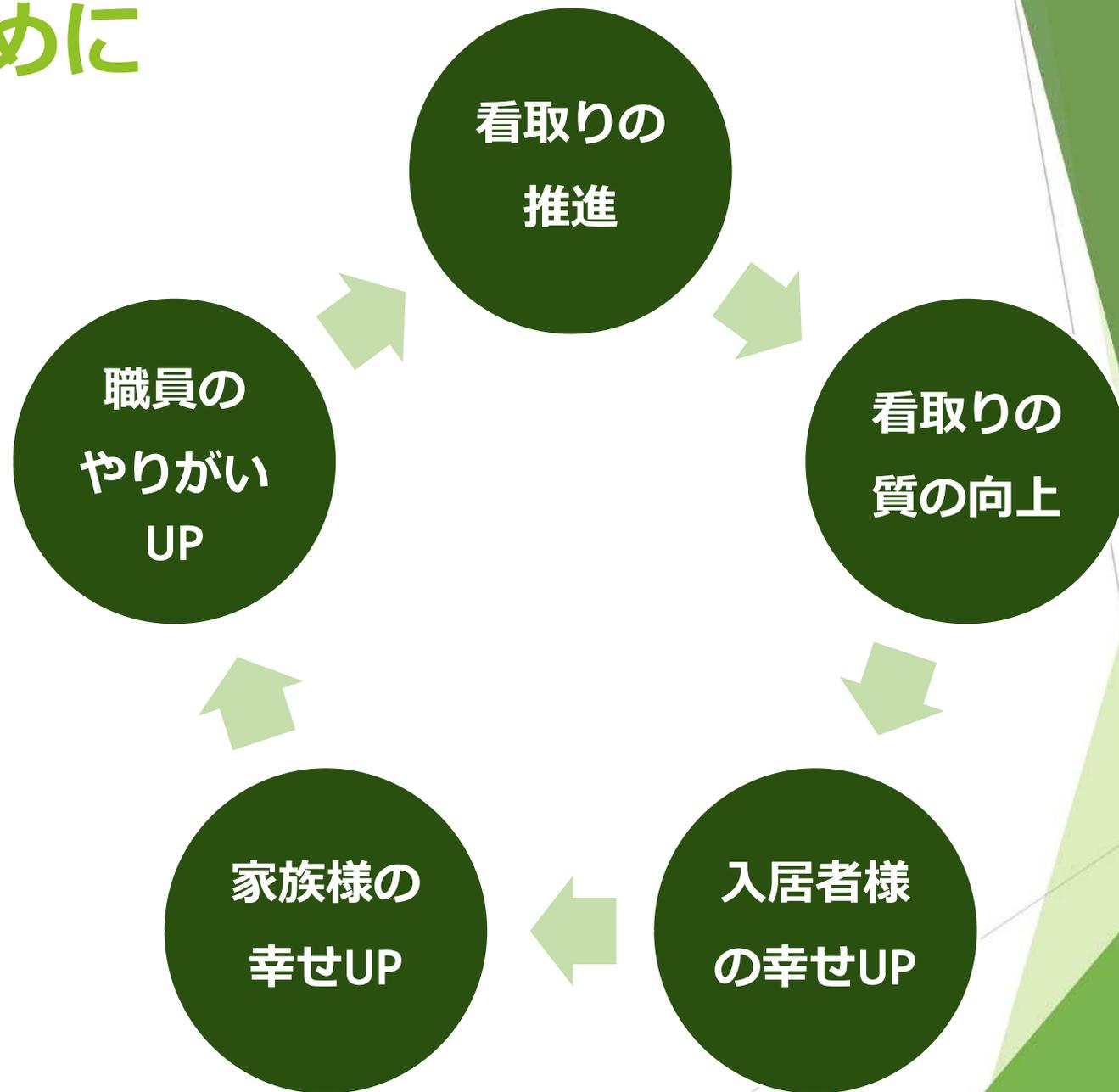
事業内容

- ▶ 介護老人福祉施設 嬉の里 70床
- ▶ ショートステイ 10床
- ▶ 特定有料老人ホーム むつみ寮 30床
- ▶ 嬉の里デイサービスセンター
- ▶ 居宅介護支援事業所 嬉の里

施設紹介



はじめに



嬉の里の看取りの課題

- ▶ 看取りに関しては多職種連携が不十分であった。
- ▶ 看取りを十分理解できている方が少数で看取り期の対応が不十分であった。
- ▶ 看取り期、看護が主になってしまっている場面が少なくなかった。
- ▶ 看取り後に職員の不安や不満を耳にすることが少なくなかった。
- ▶ 家族様のグリーフケアが不十分であった。
- ▶ 良い看取りをするために必要なコーディネーターが少なかった。
- ▶ 看取りを現場に定着させるためのアクションが不十分であった。

取 り 組 み

- ▶ ①多職種連携の強化
- ▶ ②入居所様を知る
- ▶ ③家族様自身の想いを知る
- ▶ ④職員のグリーンケア
- ▶ ⑤家族様のグリーンケア
- ▶ ⑥正しい知識・意識を身につける
- ▶ ⑦コーディネーターの育成

①多職種連携の強化

- ▶ 定期のカンファレンスだけでなく臨時カンファレンス、短時間のミニカンファレンスの開催
- ▶ フットワークの軽い対応とエビデンスを踏まえた説明
- ▶ 積極的にコミュニケーションをとる
- ▶ 職種の特性への理解と共感・リスペクト

②入居者様を知るために

- ▶ この点は時間がかかりますが特に強化したいところ。
- ▶ 現状では入所時のフェイスシートだけでなく入所後の入居者様の行動・言動・既往歴・家族様の情報から個別情報更新し、個別性を考えたサービス提供に活かす対応。

③ 家族様の想いを知るために

- ▶ 日頃からのコミュニケーションで関係性の構築。
- ▶ 家族様の想いと理解度に合わせたカンファレンスの実施。
- ▶ 入所時、担当者会議時、状態の著しい変化、入居者様・家族様希望時の看取りの意向確認とQ&A。

④ 職員のグリーンケア

- ▶ 看取り後カンファレンスの実施
- ▶ 看取りについてのアンケートの実施とそれに対する回答も含めた研修
- ▶ 基本的な看取り期の経過やエンゼルケア、エンゼルメイク、着付けの研修
- ▶ その時々での個別性を踏まえた変化を看護師より多職種へとアナウンス

⑤ 家族様のグリーンケア

- ▶ 入居者様、家族様の意向に十二分に寄り添った看取りの実践。
- ▶ 様々な家族様の想いを配慮した柔軟なコミュニケーション。
- ▶ 入居者様、家族様の「したい、してあげたい」を実現。

⑥正しい知識・意識を身につける

▶ 研修の実施

- 死生観に関する研修
- アンケート結果に連動した不安や疑問に対する研修
- もしばなカードを活用した入居者様、家族様、利用者様、職員合同の研修
- 看取り期の状態の変化とサイン、エンゼルケア等の研修

▶ タイムリーな状況でのQ&A対応

⑦コーディネーターの育成

- ▶ ①～⑥の取り組みから⑦につながるようなキャッチボールを積極的に行う。

取り組みにより 得られた効果

① 多職種連携の強化

- ▶ 職種、職員間の隔たりが緩和。信頼関係の構築が進んだ。
- ▶ 風通しが良くなったことで情報交換量が増加した。
- ▶ 多職種、それぞれの必要性が理解できている職員が増えた。
- ▶ 多職種間で助け合う場面が増えた。
- ▶ 多職種が機能し始めたことで各職種のパフォーマンスが向上した。
- ▶ 多職種の特性効果が増大した。

②入居者様を知るために

- ▶ 入居していただいた時から看取らせていただく気持ちで入居者様の「したい、こう在りたい」、
「性格や今までの背景、既往歴をふくめたその方の個性」にアンテナを立て続け、「したい、こう在りたい」を実現しつつ、その延長線上に看取りがある形につなげることが分かっている職員が少しずつ増えてきた。

③ 家族様の想いを知る

- ▶ 様々な家族様の想いに合わせた柔軟な対応ができる（入居者様のことをしっかりと考えた上で）
- ▶ 入居者様の状態と家族様の想いのすり合わせができる
- ▶ 家族様の想いを表出していただきやすくなった。

④職員へのグリーフケア

- ▶ 職員の不安や疑問、負担の軽減、または解消。
- ▶ 看取りから学んだことを次に活かす気持ちになれた。

⑤ 家族様のグリーンケア

- ▶ 看取り中、看取り後ともに家族様に満足頂いている、頂いた声の頻度がより増加した。
- ▶ 家族様から不安や希望の相談もよくして下さるようになった。
- ▶ 家族様との信頼関係をより強化することができた。

⑥正しい知識・意識を身につける

- ▶ 職員の看取りに関する不安が軽減した。
- ▶ 看取りに関する認識が柔軟になった。
- ▶ 家族様、入居者様に「何がしたい」を考えていただく機会ができた。
- ▶ 職員内で生じる不安や疑問と直接触れ合うことができた。
- ▶ 不安が軽減したことで看取りの本質と向き合いやすくなった。

⑦コーディネーターの育成

- ▶ 調整の必要性を意識出来る職員も増え、以前に比べ、「～さんがいないから分からない」等の場面は明らかに減少した。

それにより、どのような人員配置でも安定した質の看取りが実践できるようになった。

E t c



まとめ

看取りにゴールはありません。私たち法人もより良い看取りができるよう一丸となって頑張っている途中です。

すぐに結果が出ないこともたくさんありますが、取り組み続ければ理想が理想のまま終わるのではなく、現実に変化させることが可能なことも強く実感しています。

皆様をご存知の通り人生は一度しかありません。

一度しかない人生の最後の時に私たちは関わらせていただいています。私たちの努力次第で入居者様の余生が明るく、幸せなものになるよう精進していきたいと思えます。

そして、入居者様、家族様の幸せの輪が今よりももっともっと広く、大きくなることを心から願っています。

ご清聴ありがとうございました。